

和夏子ちゃんのかゆくていつも泣いていました



娘との対話。楽しく変身!



息子との対話。いつも傍にいるよ。

## 対話で、乗り越えられること。



文武君が掻いてキズができな  
いようにお父さんがメガホン  
を改良してつくりました。



そして、手にした宝物。

札幌市 中岩和彦

### 対話で、乗り越えられること。

娘が二歳の時に全身に拡がり始めた赤いブツブツは、いつしか我が家の生活の中心になって行きました。勿論、悪い意味で。

毎日の入浴時に、木綿の下着の白いシャツに付いた血液の赤を確認する日々。可愛い真っ直ぐな目で、「おとうさん、カユイよ。」と訴えて来る娘の皮膚は、カサカサで張りが無く痛々しい。二歳の子供に、「痒くても、絶対に掻いちゃ駄目。」との理不尽を言わなければならぬ辛さは、今でも鮮明に覚えています。

その時分、皮膚科にはちゃんと通っていたのですが、診断名は「アトピー性皮膚炎」。

症状が出る度に処方される薬はステロイド剤。確かに効き目は抜群なのですが、一旦終息した後の再発時の症状は、素人目ながら重症化の一途を辿っている事が分かって、心の片隅から徐々に、私たち家族は蝕まれていったのだと思います。

このアトピーは遺伝もあるのだろうか、自問自答。

親として自信を失いかけて、「この子は生まれてきて、本当に幸福なのか。」と塞ぎがちに思い悩む日々。そんな谷底のようなある日、人生の大先輩の紹介して下さった狸小路のアガタ薬局。そしてそこで出会ったのが、一連のカワゾエカンパニーさんの製品でした。

まさに藁をもすがる思い。ステロイドに漠然とした疑念を抱き始めていた所だったので、駄目で元々とカワゾエカンパニーさんと、アガタ薬局のご指導に賭けて見ることにしたのでした。

「ステロイド剤と違って、効果はすぐには表れませんよ。」

「子供さんの自然治癒力を引き出しましょう。」等々。

色々なノウハウを学ばせていただきながら、それからの日常生活が全て、アトピーとの手探りの会話でした。そう、私にとって、戦いではなく会話だったので。

浴槽にはアクルバスメイト。湯船に少々垂らす、これがしつとりと良い感じ。

そして風呂上りにはすぐにバスメイトを全身に塗布。

引っ掻いて傷になった部分には、ゲンタシン。真菌感染には、エンペシド。

ブツブツの一つ一つにアクルエッセンスを祈るように吸わせ、更に通常はイブニックエース。アトピーのひどい部分にはイブニックに代えてデルマパール。

それらが終了すると、最後に保湿剤を全身塗布して一回のケアが終了。

それを朝晩、欠かす事無く。繰り返し、繰り返し、繰り返し、,,,,,,。

結果がすぐに表れない事は分かっているけど、二ヶ月を経過する頃にはさすがに精神的に疲れて来ました。症状は、まるで寄せては返す波。素人目には一進一退。出口の見えないトンネルに、絶望の大きな波が不意に襲って来たりして、落ち着かなくて悲しくて苦しくて。食事も美味しいと感じられなくて、夜もぐっすり眠れなくて。

だけど、どこも患者と患者の家族って、そんなものだと思います。

止まない雨は無いはずなのに、明けない夜は無いはずなのに、もしかして不幸は自分の所だけに自然の摂理を曲げて擦り寄って来ているのではないかって、そんな底知れぬ断崖絶壁の淵を歩かされているような不安。

そんな折、大きな支えになったのが、アガタ薬局の先生を始めスタッフの皆さんでした。

専門家の目から診た治癒段階の進行度合い。その時その時の治療効果の丁寧な説明。その上、疲れた私たちに「元気出して、一緒に乗り越えましょうね。」と、折に触れて差し入れて下さった草団子。

これらは、荒れかけた私たち家族の心の風景に降る慈雨の様でした。

確かに、今言えることは、私たち家族だけでは決して乗り越える事なんて出来なかったんだと言う事。これは間違いありません。

幾つもの峠を越えて、八ヶ月が経過して三歳を過ぎた時、我が家の季節が移りました。

ステロイドに一切頼る事無く、娘は安定した普通の皮膚を手に入れたのです。

「治りましたね。」との言葉をアガタ薬局の先生から頂いた時に出た涙は、心の底からだった事、今でも覚えています。

ここで全て終わったと誰もが思ったのに、、、。

ところが、すぐに入れ替わるように、生後三ヶ月の息子がアトピーに。

正直、目の前が真っ暗。喜んだ直後の悲しみは、喜んだ分だけ辛かったです。

娘のアトピーの発症部位は、首から下でした。しかし息子の場合は、常に見えている顔の部分、それも娘より相当酷い状態。まるで桃の薄皮を剥いだ様で、顔中が滲出して来る体液でベトベト。まだ幼過ぎて、ただ本能のままに引っ掻いて、朝起きた時には枕が血だらけというのは良く有る事でした。

滅入りながら苦し紛れの対策として、顔中に包帯を嚴重に巻いて、両手には犬のカラーからヒントを得たプラスチックのメガホンを付けてみたのですが、これが結構効果大。引っ掻き傷がピタリと無くなったのです。犬の治療みたいに、赤ん坊の両手にメガホンを付けるというのは一歩間違えれば虐待とも取られかねませんが、その時の私の心境は、開き直りでした。娘に続いて息子まで。もう分かった、アトピーは日常なのだという開き直り。

前にも書きましたが、戦いより会話。この頃には、アトピーも娘や息子の命の一部だとも思える様にもなっていました。「アトピーよ、君がそう来るなら知恵比べだ。」と、どこかで客観的に接するのがアトピーとの上手な会話なのかもしれません。事実、この考えでかなり毎日が楽になって行ったのです。例えるなら、アトピーという映画を観ている観客の気分と言った感じ。

更に上手い具合にこの時期、カワゾエカンパニーさんの開発されたアクルジェルが登場したのです。娘のケアと同様の流れに、保湿剤の代わりにアクルジェルを投入。

娘の治療で、アトピーとの会話の呼吸は分かっています。気長に、気長に。

これもまた私達家族に与えられた物語の一頁だと、どこか気楽に構えられるまでに私も成長できたのでしょうか。

ケアの要領も良くなったのか、息子の治癒まで7ヶ月。これは本当に嬉しかったです。

そんな娘も今春、中学生に。息子は小学四年生です。

二人とも、あの頃が嘘みたいに元気一杯です。

今では我が家の薬箱の横には、アクルバスメイト・アクルエッセンス・アクルジェルが常備されています。日焼けした時・乾燥気味の時・風呂上りの気分転換にと、すっかり身近な生活の中に溶け込んでいるのですよ。

ふと思います。あの苦しい時、カワゾエカンパニー製品に出会わなかったらと。果たして今の幸福が手に出来たかと。そう、だから、多くの人に伝わって行って欲しいのです。

人の持つ自然治癒力を引き出してくれるこのアクルシリーズ。本物です。暗闇の中で今も苦しんでいらっしゃるだろう多くの人に、どうか自信と信念とを持って伝えて行って下さいませんか。私たち家族とアクルシリーズとアトピーとの会話の全記録は、札幌のアガタ薬局にお渡ししてあります。そしてもしそれが必要とあらば、どうぞご活用下さい。

それで、もし苦しんでいる誰かが少しでも救われるならば幸いです。

「戦うより、会話」私はそう言いました。しかしそれでは完全で無い事に最近気付きました。全てを乗り越えて今、振り返って初めて見える真実です。

それは「会話より、対話」という事。

治療には、ただ会話が必要なのではなく、心をこめて心を開いて目をそらさずに、正面から向かい合って話す事が重要なのだと言う事。

今の症状と向かい合って。

患者本人やその周りの家族の心と向かい合って。

正しい保湿剤と向かい合って。

そしてそれらを理解してくれる指導者と向かい合って。

更には、自らの使命と覚悟とに向かい合って。

こんな対話の数々が、鍵なんですよね。今、しみじみ思います。

それから最後に。

これだけは言わせてください。

アトピーはコントロールできます。対話で乗り越えられます。

ただそれには、正しい保湿剤と、揺るぎない自信と信念とを持った楽天的な指導者が必要なのです。それも出来れば、全国に。

どうか全国の薬局の皆様、どうかどうか正しい指導者であって下さい。

そして皆様が、一人でも多くの笑顔を護って下さいます事、強く強く祈っております。





追伸

乗り越えた家族は、強いのです。  
何気ない毎日が、とても輝いて見えるのです。

